

# 鉛アジアの変調

上

「韓国でリサイクル原料不足が深刻化しているようだ」——市場関係者からこうした情報が聞こえ始めたのが7月のことだ。昨夏に二次精錬業界の環境問題が発覚した後も、廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の輸入旺盛と二次精錬業の高操業が続いていたが、ここに至り変化が統計上でも明らかになってきた。電気鉛のタイト感を強めている日本を含め、アジアの鉛需給の行方を探る。

韓国関税庁がこのほど発表した貿易統計によると、直近7月の廃バッテリー輸入量は3万2328ト。4カ月連続で前月比ダウンとなり、2015年11月以来の低水準となった。3月に過去最多の4万7038トを記録したものの、ピーク時から31%も急減したことになる。

対応しているが、輸出先のタイでは韓国鉛から蒙州鉛への使用切り替えが始まるなど、アジアの需給構造にも影響が出ている。ここ10年間で韓国の廃バッテリー輸入は10

倍近くに急拡大したが、今春までその勢いは止まることがなかった。昨年11月以降は月間4万ト台に達し、今年には年間50万トのペースで推移。これは日本

国内で発生する自動車用・産業用の全ての廃バッテリー量を上回る

と推定される。4月以降の韓国の変調は、国別の輸入量を見れば一目瞭然だ。7

月の米国からの輸入量は4633トで、年初のピークと比べると3分の1に急減。UAE（アラブ首長国連邦）

からの輸入も4746トと半減している。日本を含めたこの3カ国が輸入の6割前後を占めていたが、その2カ国から急速に落ち込んでいる。

見れば一目瞭然だ。7月の米国からの輸入量は4633トで、年初のピークと比べると3分の1に急減。UAE（アラブ首長国連邦）

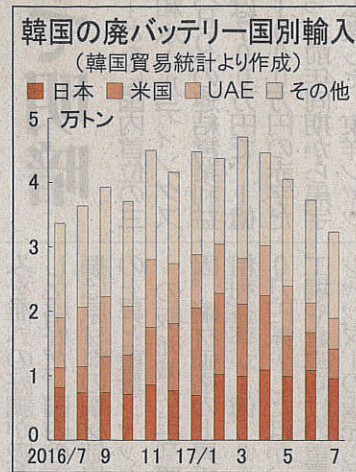
からの輸入も4746トと半減している。日本を含めたこの3カ国が輸入の6割前後を占めていたが、その2カ国から急速に落ち込んでいる。

韓国は、国別の輸入量を見れば一目瞭然だ。7月の米国からの輸入量は4633トで、年初のピークと比べると3分の1に急減。UAE（アラブ首長国連邦）

からの輸入も4746トと半減している。日本を含めたこの3カ国が輸入の6割前後を占めていたが、その2カ国から急速に落ち込んでいる。

## 韓国、輸入減背景に「環境」

### 廃バッテリー 対日のみ高水準



国は廃バッテリーを輸出し、代わりに韓国でOEM生産したバッテリー製品を輸入する。いわゆる交換貿易だ。この関係は、米国西海岸で鉛リサイクル工場が相次いで閉鎖した12

月、代わりの韓国でOEM生産したバッテリー製品を輸入する。いわゆる交換貿易だ。この関係は、米国西海岸で鉛リサイクル工場が相次いで閉鎖した12

月、代わりの韓国でOEM生産したバッテリー製品を輸入する。いわゆる交換貿易だ。この関係は、米国西海岸で鉛リサイクル工場が相次いで閉鎖した12

手バッテリーメーカーが5-6社あるが、中にはこうした海外向けOEM生産に特化したメーカーがあるといわれている。

対米廃バッテリー輸入の急減については、明確な理由は不明だが、

また、その二次精錬業界と、残渣処理を

が、ここに至り「韓国側の環境問題がからんでい

からだ。なお、情報筋によると、韓国二次精錬メーカー十数社のうち、環境施設査察の受け入れを表明したのは中堅社のみで、大手は軒並み拒否しているという。また、その二次精錬業界と、残渣処理を

委託していた処理業者との間で、放置されたままになっている精錬残渣の処理費用をめぐって係争が起きているともいわれるなど、韓国国内の環境問題はまだ収まっている。

◇◇◇  
日本は6月から改正パーセル法が発効され、韓国側の査察受け入れ拒否により、廃バッテリー輸出に必要な新たな輸出承認が下りない状態が続いている。

ただし、「輸出先の環境問題が解決しないままに、現行の輸出を

認めるのはいかなるものか(二次精錬メーカー幹部)と、環境汚染を輸出している可能性に対して法的拘束力がないことに疑問を抱く声もある。

その日本からの輸出はここ半年間、月1万少前後の過去最多水準が続いており、韓国の二次精錬業界の操業率を下支えする形になっている。すでに承認済

高水準が続くだろう(集荷業者)とみられている。

現在、日本国内では廃バッテリーを集荷しにくい状況だが、背景には原料不足の韓国側が、日本に対して強め

ている輸出圧力があるようだ。輸出ライセンスが完全に切れる来年6月には流出が止まるといわれているが、過去3年間で70カ国以上から廃バッテリーを調達してきた韓国が、無策のまま原料不足に陥るとは考えにくい。韓



輸出される廢バッテリー

みの輸出枠は、実際の輸出量を大幅に上回るため、ライセンスが切れても別の業者に転売するなどして、ギリギリまで輸出

(桐山 太志)